



課題 1-3 見つけよう 生命(いのち)のにぎわうちばの海

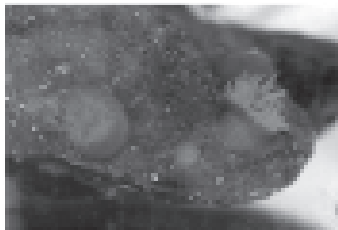
千葉県の里海についての学習のポイント

- 1 千葉県は、海・川・水田など、豊かな水環境が身近にある。また、その環境を生かし、古くから水産物が豊富である。実際に水辺に出かけ、生物を観察することで、水はぐくむ生命と自分たちのくらしの関係について気づく学習になることが期待される。
- 2 身近な水環境について、五感を活用して関心を持たせる。まず、少し離れた場所から里海の景観を観察させる。次に、そこでどのような生物がかかわり合っているか、じっくりとふれ合う時間を持つ。観察する視点を色、形、大きさ、動き、体のつくり、雌雄などいくつか提示し、観察させるとよい。
- 3 身近な水環境の中で生きている姿をスケッチしたり写真を撮ったりすることを通して、生命や生態の不思議を感じ、疑問について調べることによって、生命を尊重しようとする意識を持たせる。また、友人に調べたことを伝え合う活動を設定することで、地域の良さや様々な生命と共存していく意味を理解させたい。
- 4 生命のにぎわう水辺の環境を大切に、受け継いでいく思いを高め、どのようなことができそうか書いたり話し合ったり、標語を作ったりすることを通して、生まれ育った地域や千葉県に誇りと愛着を持たせたい。
- 5 観察や探究活動においては、昔から住んでいる地域の方に取材したり、博物館などで教えてもらったりすることで、より詳しい生態を知り、地域への思いを感じる機会になると考えられる。
- 6 内陸の地域の学校では、里海の自然と関係がないと思われがちであるが、どの地域にもある川は、海とつながっていることを意識させたい。そして、川が海の自然をはぐくんでいることを知らせ、自分たちの生活とかかわっていることに気づかせ、水環境を保全する実践的な活動に結びつけていくようにしたい。
- 7 海での活動の際は、潮汐表を参考にし、安全に配慮する。干潮時の前後1時間が観察には適時である。また、カツオノエボシなど危険な生物もいるので注意する。採集した生物は観察終了後に、元の場所に戻す。

見つけてみよう海の生命



岩の裏にたくさんの生物がいる。観察したら、元のように岩を戻す。



潮間帯にすむウメボシイソギンチャク。水中ではどんな姿か調べてみる。

■海に出かけるときの服装例



作画：村田亜紀

■観察時に準備すると良いもの

箱めがね、バケツ、水槽、バット、ピンセット、虫めがね、へら(磯めがね)、拡声器(指導者用)、たも網、救急箱、のぼり(集会場所目印)、差し棒など

■事前に確認しよう

- 予定地までの交通手段と所要時間
- 休憩(昼食)場所、トイレ、着替える場所、荷物置き場、手や足を洗う場所の有無
- 観察エリアの設定や観察所要時間の試算
- 危険箇所の確認
- 緊急時の避難場所や病院

※団体で磯観察を行う場合、事前に現地の漁業協同組合に連絡し、承認を得る必要がある。

※観察予定地がどの漁業協同組合の管理範囲に属するかなどの情報は、該当する市町村の役場に問い合わせるとよい。

[参照] 磯の生き物観察会実施マニュアル
千葉県立中央博物館分館海の博物館 発行